

# 次期「長期ビジョン実行プラン」骨子案

## 次期・長期ビジョン実行プランの体系

実行プラン  
(2025~2029) コンセプト

とんがろう、楽しもう、ふくい

最重点化  
プロジェクト

〔コンセプトの実現を目指す3本の柱〕

ひとが活躍、  
ダイバーシティ！

まちに活気、  
エキサイティング！

くらしに活力、  
クオリティ！

+

次世代ファースト戦略

将来像の実現に向けた  
5つの政策分野  
と  
次世代ファースト戦略  
の体系

5分野に18の政策の柱を立て、特に重視して実行する「重点施策」を設定

個性を伸ばす  
(人材力)

成長を創る  
(産業力)

楽しみを広げる  
(創造力)

住みやすさを高める  
(地域力)

ともに進める  
(総合力)

+

実行プランに掲げる施策を、次世代ファースト戦略の観点で再構成

若い世代に選ばれる  
「地域スタイル」の  
構築

「働きがい+働きやすさ」  
の魅力ある仕事の  
創出

結婚・出産・子育ての  
「希望が叶う社会」の  
実現

進学・就職・移住の  
「多様な選択肢」の  
拡充

地域プラン

実行プランの主な施策や市町等の取組みを、4つの地域に分けて整理

福井坂井地域

奥越地域

丹南地域

嶺南地域

# 次期「長期ビジョン実行プラン」骨子案

## 最重点化プロジェクト：次世代ファースト戦略

- 「この場所ならうまくいきそう」という未来の実感。幸福度日本一の基盤のもと、都会以上の生活水準を実現し、多彩な選択肢の中で、次世代を担う若者たちが明るく前向きに成長できる「やりがい」と「居心地の良さ」を追求



### 基本戦略Ⅰ 若い世代に選ばれる「地域スタイル」の構築

自由で多様な価値観が尊重され、若い世代や女性が自分らしく活躍できる社会を形成。自身のアクションが未来を創る地域との関わりしろをつくり、幼いころから地域への愛着を深めます。

- ①自由で多様な価値観を楽しむ社会づくり
- ②未来を切り拓く地域とのつながりづくり

### 基本戦略Ⅱ 「働きがい+働きやすさ」の魅力ある仕事の創出

若い世代の自発的なチャレンジを応援し、若者や女性の価値観を尊重した働き方に変革。若い世代の所得向上と、誰もが働きがいと家族時間を両立できる職場環境づくりを促進します。

- ①挑戦と成長を後押しする仕事づくり
- ②ライフスタイルに寄り添う職場環境づくり

### 基本戦略Ⅲ 結婚・出産・子育ての「希望が叶う社会」の実現

結婚や出産の希望が叶い、思い描く家族像を実現できるよう、社会全体で応援する機運を醸成。子育て中の家族がその楽しさを実感し、若者がポジティブなイメージをもつ、日本一幸福な子育て県「ふく育県」の魅力を広げます。

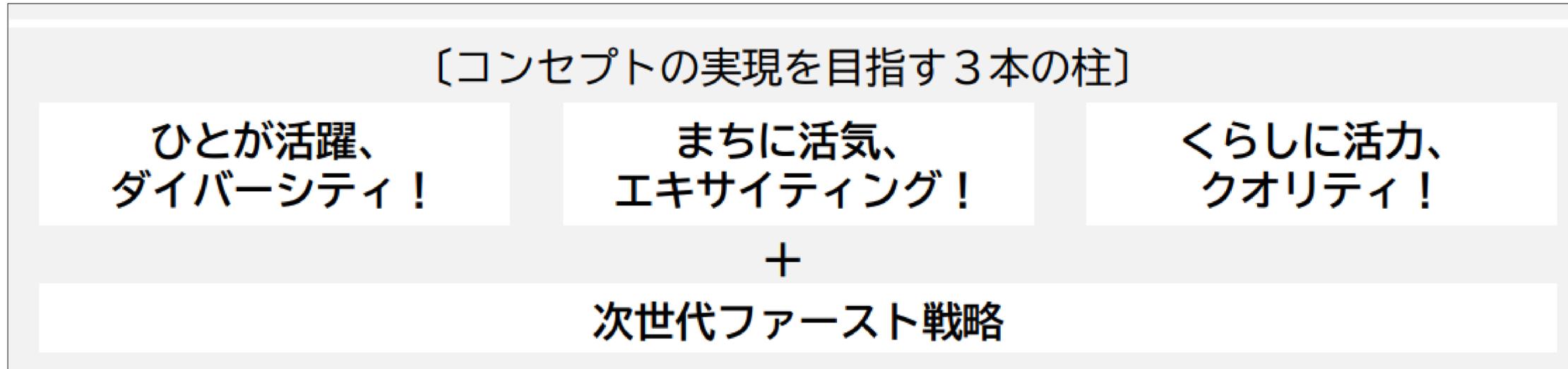
- ①地域と共に育む家族の安心づくり
- ②子育てで広げる幸せの輪づくり

### 基本戦略Ⅳ 進学・就職・移住の「多様な選択肢」の拡充

多様な選択肢の中から、地元での進学や就職、U・Iターンを自由に選択できるよう、若者の進路選択を支援し、地域や企業の魅力を積極的に発信。Iターンでも安心して暮らせる環境を整え、移住者にもやさしいまちを形成します。

- ①ふるさとで描く学びとキャリアの道づくり
- ②移住者と福井を結ぶサポートづくり

# 次期「長期ビジョン実行プラン」骨子案・抜粋



## ○ ポジティブ・ライフスタイル社会の構築

若い世代が安心して将来設計を描ける社会の構築。所得向上や暮らし方改革・結婚・子育てなど自分らしいライフスタイルにポジティブになれる環

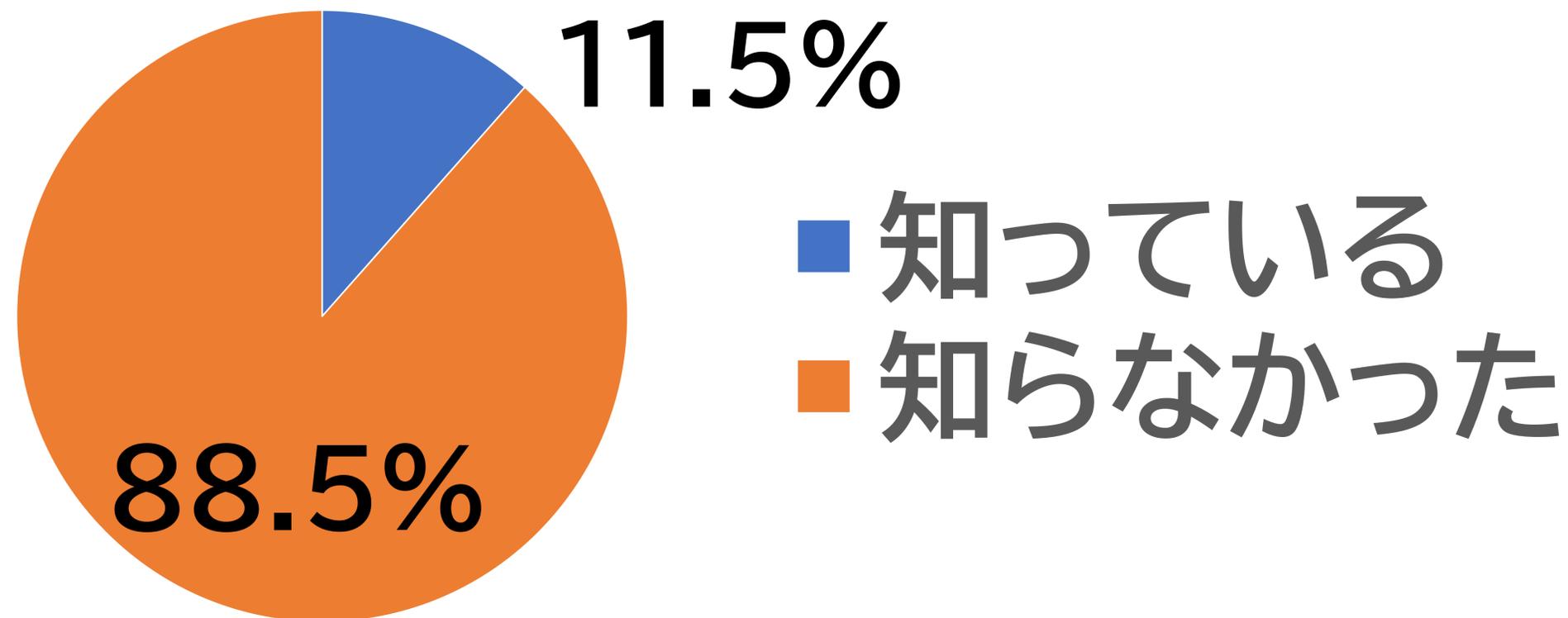
- ・短時間正規をはじめとする多様な勤務制度など、働き方改革の拡大
- ・こども・若者主体の活動への応援や社会全体での子育てサポートの充実など、こ

安心して働く職場環境への支援  
見守り活動などアウトリーチ型の支援  
モデル」の実現  
援、プレコンセプションケアへの支援  
「イクササエモデル」の実現

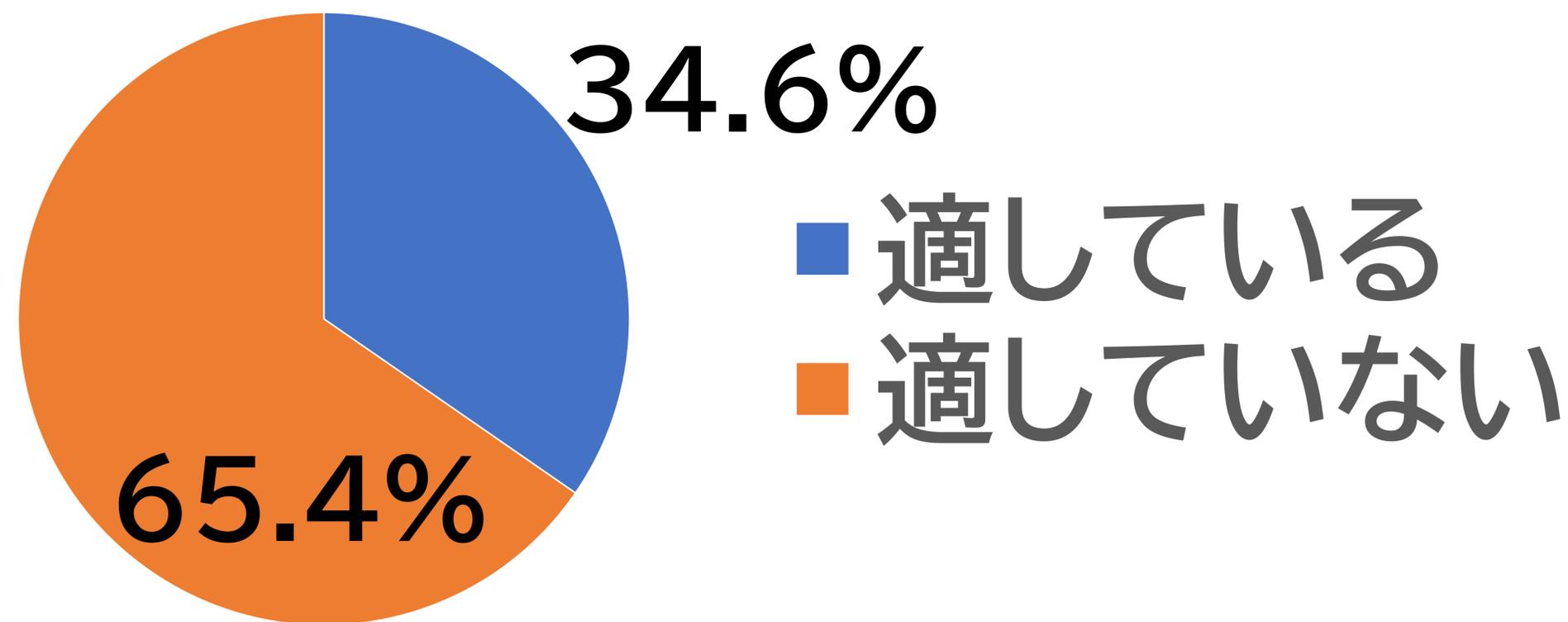
価値観を楽しむ社会づくり  
地域でのアンコンシャス・バイアスへの気づき  
る若者や女性のロールモデル発掘・発信の強

給与、待遇、雇用形態等のジェンダーギャップの解消  
リスキリングや職業訓練の充実

## ☆本・9条本を知っているか



## ☆使用する教科書が適していると思うか



調査概要: 県内・11/5～29・特別支援学級&学校に通う小中学生の親にLINE等で拡散・上記は回答者47人のうち支援“学級”の26人のみ抜粋

## 知的障がい学級の10年間の推移(福井県)

	平成27年度		令和6年度
義務教育段階の 全児童生徒数(人)	66,942		58,125
知的障がい 特別支援学級 在籍者“数”	552	→	869
知的障がい 特別支援学級 在籍者“割合”	0.8%		1.5%

うち、検定教科書“以外”の活用は

**19人 = 2.2%**